

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22520663

研究課題名（和文）パリ国立図書館東洋写本室蔵書を巡る異文化交流の総合的比較研究

研究課題名（英文）Comparative research of cultural exchange on the manuscripts of the National Library of France

研究代表者

伊藤 信博 (ITO NOBUHIRO)

名古屋大学・国際言語文化研究科・助教

研究者番号：90345843

研究成果の概要（和文）：17世紀から18世紀初期における東アジアと西欧との文化交流の軌跡を、フランス国立図書館蔵書の研究を行うことで明らかにした。つまり、文化交流史の流れの中で生まれた仏国での東アジアおよび日本研究、そして、東アジアの西欧文化受容を、特にイエズス会宣教師により中国で出版された西洋科学書漢訳書や在日大使でもあったヴィクトール・コラン収集漢籍の目録作成、日本の絵巻である『酒飯論絵巻』などからの分析、研究を行った。

研究成果の概要（英文）：The aim of this project has been to shed light on cultural exchanges between East Asia and Western Europe from the 17th to the early 18th Centuries, a period that witnessed the emergence of East Asian Studies, and specifically Japanese Studies, in France. Working primarily in materials archived at the French National Library, this project has examined and analyzed: Chinese translations of Western books, published by Jesuit missionaries in China; Chinese books owned by Victor Colin, former ambassador to Japan; and lastly, a Japanese illustrated hand scroll entitled *Shuhan-ron emaki* (*Debating the Merits of Wine and Rice*).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史、交流史

キーワード：文化交流史、フランス国立図書館、写本室蔵書（和・漢・朝鮮）、西欧と東アジア、17～18世紀、宣教師による西洋科学書の漢訳書、酒飯論絵巻、図像表象

1. 研究開始当初の背景

平成19年度に名古屋大学の助成により、パリ国立図書館東洋写本室内でしか閲覧できない写本室日本及び朝鮮蔵書の手書き目

録を図書分類カードと比較しながら目録化し、解題目録として発表した（名古屋大学言語文化論集第30巻第2号、67～96頁、2009年）。この写本室には18～19世紀に寄贈また

は購入された原本総数で2,700点程の和書の蔵書がある。しかし、日本人による蔵書の全体的な研究は殆ど行われておらず、写本室前研究員の小杉恵子氏による「パリ国立図書館における18～19世紀収集和古書目録稿」（日蘭学会会誌第17巻第一号、1992年）、「1937年～1986年における寄贈和書の目録」、「1937年～1986年における寄贈写本、古地図、和古書の目録」があるのみで、私人研究者による個々の蔵書をテーマにした研究もほとんどない状態であった。

朝鮮本に関しては、30年以上在日・朝鮮仏国大使であったビクトール・コラン収集品の1911年競売目録と写本室蔵の1930年代に記された手書き朝鮮漢籍解題目録を比較した。その結果、競売目録中の約1,000点の内、275点が画、版画、または朝鮮や日本漢籍であること、100点程の漢籍、地図、版画等を写本室が競売時に購入したこと、古和書14点が5年後に寄贈され写本室蔵となったこと、彼の収集浮世絵等も同時期に版画室に寄贈されている事実などが明らかとなった。つまり、彼のコレクションの30%強が写本室蔵となったのである。また、2006年に高麗大学で行われた「Souvenirs de Séoul」展覧会解題目録（フランス極東学院版、2006年）から、彼の収集絵画・彫刻等も同時期にギメ美術館が購入している事実も突き止めることが出来た。

漢籍に関しては、平成21年及び22年に、所属研究科教育研究プロジェクトの助成を受け、『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』（以下、「解題目録」）の中から、17～18世紀に宣教師が中国において著した漢籍を中心に調査を行った。特に解題目録『天主降生出像経解』6750～6756は同一板を板行した異本であり、6750はその序文により1637年版である。また、その序文及びアンリ・コルディエ編1911年版『17～18世紀に中国において

西洋人によって出版された西書漢訳解題目録』（以下、「西書漢訳解題目録」）から、その画がジェローム・ナダル作「絵入り福音書」を翻刻したことが明らかである。このジェローム・ナダル（1507～1580年）は、イエズス会の宣教師で、福音史家を描き、霊性修業（靈操）用に制作した「絵入り福音書」は1593年に“*Evangelicae Historiae Imagines*”が、1595年に“*Adnotationes et Meditationes in Evangelia*”がそれぞれ出版されている。

ところで、6750はナダルの1593年版の図の配置に従い制作されているが、「絵入り福音書」の特徴である陰影法の技法による画は皆無である。この意味では1637年頃には中国において、陰影法が知られていなかった事が分かる。ところが、同じタイプの6756の一部の画はそれ以前の出版異本が木版での板行を繰り返した結果、一部欠損が出たため、3枚だけ板を作り直しており、その画には陰影法での表現が見えるのである（制作年代の記載無し）。

以上の背景から、●和書研究は解題目録等の研究はあるが、日本文化研究として、所蔵品目を選び、私人研究者が詳細に行った研究が皆無であること●コラン収集品の研究は皆無であること●その収集品が各図書館にどのような歴史的経緯で所蔵されて行ったのかが研究されていないこと●宣教師が紹介した「絵入り福音書」図の陰影法の技法とその受容研究が無いことなどの問題点が明らかとなった。このような問題点に鑑み、また写本室主催の私人研究者を主体とした「酒飯論絵巻」研究会のメンバーに選出されたことから、和本は「酒飯論絵巻」などの図像表象、朝鮮漢籍は「コラン収集品販売目録」、漢籍は西洋科学書の漢訳書を中心に問題の核心に迫ろうと考えた。そして、仏国における東アジア及び日本研究、東アジアの西欧文

化受容を多角的な位相からの“知”を発信する文化創造の流れと捉え、当該テキストの位置や意味を認知する契機をもたらす双方向的な研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究は、東アジア全体に共通する文化交流の軌跡と西欧との関わりを、フランス国立図書館東洋写本室・版画室蔵書を中心に明らかにすることである。つまり、文化交流史の流れの中で生まれた仏国での東アジア及び日本研究、東アジアの西欧文化受容を、多角的な位相からのアプローチにより“知”を発信する文化創造の流れとして探究する。そのため、宣教師により中国で出版された西洋科学書の漢訳書、ヴィクトール・コラン収集漢籍、そして収集和書から「酒飯論絵巻」などを選び、これらの資料を歴史、民族学、美術史、文学、博物学など様々な見地からの分析により実践研究を行うことを目的とする。

まず、平成 19 年度に目録化した蔵書の確認作業を行う。また、中世及び近世文学、民俗学、文化人類学、日本史、服飾史、古文書学、食物史、中国文学などの研究領域を超えた仏人研究者が参加する「酒飯論絵巻」研究会出席による仏人研究者の研究視点の対照や仏国の研究資料を収集・分析することで、仏国における東アジア研究とこれらの蔵書の関わり、写本購入の経緯や文化的背景に迫る。次に、コラン収集販売目録と写本室蔵書及びギメ美術館蔵書との対照から、コラン収集品の品質の高さを実証し、仏国における東洋美術収集とコランの関わりをモーリス・クーラン編「解題目録」と対照し、考察する。

宣教師漢訳書籍に関しては、「解題目録」及び「西書漢訳解題目録」と対照し、『幾何原本』、『渾蓋通憲図説』など西欧科学の紹介書や『三山論学紀』、『天儒同異考』など仏教、儒教とキリスト教の相違点または共通点を

考察する著書の解題目録を作成し、江戸期における日本への影響を考察する。

また、「解題目録」から『天主降生出像経解』を選び、ジェローム・ナダルの「絵入り福音書」の図像との精査比較を行う。『天主降生出像経解』(6750)は 57 画の作品であり、異本は 51 画で、「絵入り福音書」は 153 画から成り立っている。『天主降生出像経解』には「最後の審判」が完全に除外され、キリストの「冥府降下」（「耶蘇聖魂降臨地獄」）が異本には挿入されず、「絵入り福音書」にはない「天主降生聖像」または「天主降生時図」が全ての版に挿入されている。この点を研究の対象とし、それらの画の元となった原画を調査する。

加えて、「絵入り福音書」はラテン語で綴られた詞書が画に挿入される。これらの詞書は 4 人の福音史家の表現が導入され、霊操用であるが、『天主降生出像経解』の詞書は俗字でも綴られている。また画はキリストの事跡が時系列順に配置される 1593 年版を翻刻している（1595 年版はローマ教会暦の順序に図が配置され、起こった事跡・地点を重視し、時系列は無視）。この事実から、本来の目的とは相違した「絵解き」での教育、さらに宣教において、視覚的陶冶材として使われた可能性がある。このことから、宣教師達が中国の社会的状況や文化的要素、思想を認め、布教時に重要視した点が注目され、相互の文化受容が行われた事実が分かる。

一方、「解題目録」5501 は、宣教師の多色刷りによる中国で出版された植物画集である。版画部門蔵（0e137）で、3 巻、600 枚の植物画から構成され、陰影法を使用した描き方がなされている。制作年代は無いが、17 世紀中葉の作品には違いない。したがって、上述した『天主降生出像経解』異本だけでなく、植物画にも陰影法の影響が及んだ可能性が

あり、文芸や博物学に影響を与えた図像の「再発見」にもつながるであろう。

以上の点から、東アジアと西欧の文化交流史の一端や 17 世紀における東アジア及び西欧の文化受容と新たな知の発信作業を、上述した和本・朝鮮漢籍の所蔵の流れや日本での所蔵調査、宣教師漢訳書籍の中からを行うことで明らかにする。

3. 研究の方法

研究の中心は、目録学的アプローチから、「解題目録」、「西書漢訳解題目録」などを参照に「コラン収集品競売目録」や申請者が作成した目録及び新たな目録を作成して資料群を解析することにある。つまり、写本室所蔵の関係書籍を各範疇別に分類し、蔵書収集の方向性を位置づける。その上で、「酒飯論絵巻」研究会への参加による私人研究者との領域を超えた研究、「コラン収集品競売目録」の分析及び「絵入り福音書」をテーマとした相互の文化受容や日本への影響度を、宣教師漢訳書の日本での所蔵一覧目録作成などの研究を通して深める。そして、その研究も含め、その後の展開及び連携を私人研究者に喚起し、その成果を相互に提出し、提起した問題点の核心に迫る。

研究の学術的背景で記した課題に鑑み、毎月行われている「酒飯論絵巻」研究会の報告書を元に、申請者のテーマである「酒飯論絵巻」に描かれる食物の同定および、描かれる歴史的背景を、食儀礼研究、料理書、古往来物、『墓婦絵詞』などの絵巻を中心に研究を行う。また、写本室蔵「酒飯論絵巻」以外の所蔵本との比較に取り組む（大英博物館、ギメ美術館など）。初年度には、この研究会での発表も兼ね、写本室調査及びギメ美術館図書館調査を以下の点に注意して実行する。

①平成 22 年は●「解題目録」及び「西書漢訳解題目録」と申請者が作成した目録の対照を

行い、新たな範疇別目録作成開始●「コラン収集品競売目録」から本研究に必要なと見られる書籍・画の目録（「コラン収集品蔵書目録」）の作成●既にマイクロフィルムを所有し、対照した『天主降生出像経解』（6750～6756）の図順表と「絵入り福音書」の図順表から、除外された図が表象する内容の分析表の作成。

●写本室蔵書関係範疇目録の完成●「コラン収集品競売目録」と作成した写本室及びギメ美術館における「コラン収集品蔵書目録」の翻訳と国書総目録や朝鮮本目録との対照●「絵入り福音書」と既に所有するマイクロフィルム『進呈書像』（6757）図の対照及び翻刻図調査●写本室蔵書関係範疇目録から西欧科学関係書を抜粋した目録作成●「解題目録」5501 に紹介される植物画の検討など。

●写本室所蔵「酒飯論絵巻について」の国際研究者集会に参加、発表。②で作成した目録を元に論文を作成し、研究の方向性を公にする。また、西書漢訳書を所蔵する日本関係機関に実地調査を実施し、目録精度の確認作業を行なう。

以上のような目録作成により東アジアと西欧の文化交流史や 17 世紀における東アジア及び西欧の文化受容と知の発信作業を知る基礎資料を作成する。

平成 23 年度以降

①平成 23 年 4 月から 12 月は、平成 22 年度に作成した目録や収集した資料等から、交流、出版、表象を中心的コンセプトとした名古屋大学所属の学生と共同研究会を編成し、発表と討論を行う。

②平成 24 年度は、写本室蔵書を中心とした仏国東洋及び日本研究・発展の流れを東アジアと西欧の文化交流史を中心に研究を行なう。特に西欧科学書の漢訳書や地理書の調査を東北大学狩野文庫、インディアナ大学リリー図書館調査を通じ、比較研究をする。ま

た、写本室蔵「酒飯論絵巻」の国際シンポジウムを開催し、図像学の文化創造の流れの分析から新たな研究視点を示す。

4. 研究成果

モーリス・クーラン編『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』およびアンリ・コルディエ編『17～18世紀に中国において西洋人によって出版された西書漢訳解題目録』と研究代表者が既に作成した目録との対照を行い、新たな範疇別目録を作成した。

平成22年6月には、パリ国立図書館蔵『酒飯論絵巻』に描かれた食物に関する国際研究会（パリ）で「描かれた食物と米」に関する発表を行い、同時に写本室で、中国で出版された『天主降生出像経解』（6750～6756）を中心に調査を行った。平成22年11月にも写本室で、南懐仁が記した『坤輿全圖』（1915）、『坤輿圖説』（1526）、クーラン目録に『坤輿全圖』と記される1923A および1923Bなどの比較研究を行った。この結果、『坤輿圖説』の出版年代の疑問、1923Aは地図上に『坤輿圖説』の説明が文章で記されるのみで1923BはAと同文だが下に小さく地図が描かれていることや高橋景保がオランダ船船長であるJ. W. de Sturlerへの献辞があり、文政九年四月となっていることから、日本での写本である事実が解明された。そして、平成23年3月には、名古屋大学および西尾市岩瀬文庫において、国際シンポジウム「日本研究における内外の視点」（3月4日～6日）を主催し、研究課題である「東アジア全体に共通する文化交流の軌跡と西欧との関わり」を中心に討議した。研究代表者は、「フランス国立図書館写本室蔵『天主降生出像経解』とジェローム・ナダル作絵入り福音書について」と「海外所蔵の「酒飯論絵巻」について—フランス国立図書館蔵本を中心に—」の二つの研究発表を行った。以上のような研究から、宣教師

がもたらした様々な技術の日本への波及効果やその文化や思想の受容過程が解明された。

平成23年11月には、フランス国立図書館、セルヌスキー美術館、フランス人間科学研究所で開催されたパリ国立図書館蔵「酒飯論絵巻」に関する研究集会（『対話する絵』）に参加し、「フランス国立図書館蔵江戸絵写本に描かれる植物・食物について」の研究発表および「酒飯論絵巻」の詞書に関する発表を行った。また同時に写本室で、中国で出版された宣教師による西洋科学書の調査を重点的に行った。平成24年2月には群馬歴史博物館および東北大学「狩野文庫」の調査を行い、「酒飯論絵巻」や「農耕図」、江戸絵物語写本、西洋科学関係書（『新訂坤輿略全図』、『六物新志』など）の調査を行った。

最終年度において、モーリス・クーラン編『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』およびアンリ・コルディエ編『17～18世紀に中国において西洋人によって出版された西書漢訳解題目録』と研究代表者が既に作成した目録との対照を行い、新たな範疇別目録を作成した。そして、東北大学狩野文庫などが所蔵する西洋科学関係書（『新訂坤輿略全図』、『六物新志』など）の調査を行なった。また、インディアナ大学リリー図書館蔵、和本およびキリスト関係書籍の調査を行い、目録を作成した。

その調査から、パリ国立図書館蔵のヨハン・アダム・シャル・フォン・ベル（湯若望）やフェルディナント・フェルビースト（南懐仁）が記した地理書や新井白石の『西洋記聞』、『采覧異言』、日本二十六聖人記念館蔵『坤輿外紀七奇圖説』（「御法度書写」IV - B16）などが南懐仁の『坤輿図説』の写本である事実を明らかにした。そして、吉宗以前に、イエズス会宣教師が記した地理書も含め、西洋

科学漢書が日本に影響を及ぼした証拠を明示した。

加えて、平成 24 年 11 月には、日本学術振興会国際研究集会助成を受け、「フランス国立図書館蔵「酒飯論絵巻」をめぐって」とする国際研究集会を主催した。同月に、日仏会館（東京）において「描かれる酒と米」と題する国際研究集会を主催した。なお、これらの研究成果は、2013 年および 2014 年に勉誠出版と臨川書店から出版の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4 件）

- ① 伊藤信博、フランス国立図書館所蔵のイエズス会宣教師による西洋科学漢訳書について、多元文化、査読無、13 号、2013、121~138
- ② 伊藤信博、擬人化され、可視化される植物・食物—室町から江戸時代を中心に、アジア遊学、査読無、152 号、2012、82-106
- ③ 伊藤信博、『酒飯論絵巻』に描かれる食物について—第三段、好飯の住房を中心に—、言語文化論集』、査読無、第 32 巻第二号、2011、63-75
- ④ 伊藤信博、フランス国立図書館所蔵の宣教師による西書漢訳著書について、多元文化、査読無、11 号、2011、197-211

〔学会発表〕（計 13 件）

- ① 室町および江戸時代における食物生産と絵物語（文化創造の発展とその展開—食・戦い・装い、室町から江戸、岩瀬文庫、2013）
- ② 流通史からみる「酒飯論絵巻」に描かれる食物（フランス国立図書館蔵「酒飯論絵巻」を巡って、名古屋大学、2012）
- ③ 描かれる食の風景—イメージとその現実（描かれた酒と米、日仏会館、2012 年）
- ④ 室町時代の食物研究—流通史研究の必要性と課題（メディアを巡る文化創造とその

展開および発展、名古屋大学、2012）

⑤ フランスにおける日本物語絵写本研究について、（メディアを巡る文化創造、岩瀬文庫、2012）

⑥ 可視化され、擬人化される植物・食物、（メディアを巡る文化創造、名古屋大学、2011）

⑦ フランス国立図書館蔵江戸絵写本に描かれる植物・食物について（対話する絵、フランス国立図書館、セルヌスキー美術館、フランス人間科学研究所、2011）

⑧ 酒飯論絵巻の研究（絵入り本国際集会）、名古屋大学、岩瀬文庫、2011）

⑨ 海外所蔵の「酒飯論絵巻」について—フランス国立図書館蔵本を中心に（日本研究における内外の視点、西尾市岩瀬文庫、2011 年）

⑩ フランス国立図書館写本室蔵『天主降生出像経解』とジェローム・ナダル作絵入り福音書について（日本研究における内外の視点、名古屋大学、2011）

⑪ 「酒飯論絵巻」に描かれる食物について—赤米（あかごめ）を中心として（名古屋大学附属図書館友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」、名古屋大学、2010）

⑫ 「酒飯論絵巻」に描かれた植物・食物について（フランス国立図書館写本室およびフランス国内に所蔵される江戸時代における「日本物語絵写本」研究会、チェルヌスキ美術館、2010）

⑬ 「酒飯論絵巻」と往来物—『尺素往来』を中心に（フランス国立図書館写本室およびフランス国内に所蔵される江戸時代における「日本物語絵写本」研究会、チェルヌスキ美術館、2010）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤信博 (ITO NOBUHIRO)

名古屋大学・国際言語文化研究科・助教
研究者番号：90345843